

佳作 失敗から成長へ



イ イ ニウエ

Ei Ei NWE

国 籍 ミャンマー

職 種 介護

実習実施者 社会福祉法人栄幸会

監理団体 鳩の家協同組合

日本に来る前、私は介護の面接に何度も失敗しました。知人から「他の仕事で日本に行けばいい」と言われましたが、私は介護の仕事でなければ日本に行かないと決めていました。あきらめずに挑戦し続け、やっと合格して来日が叶ったのです。

日本へ来たばかりの頃は、毎日が困難の連続でした。ゴミの分別一つとっても、ミャンマーでは何でも一緒に捨てていたのに、日本では生ゴミ、燃えるゴミ、燃えないゴミと細かく分けなければなりません。ペットボトルはラベルをはがしてキャップと別に捨てる。そんなことも最初は全くわかりませんでした。電車の乗り方も、レジでの会計のやり方も、何もかもが初めてのことでした。ある時、勇気を出して駅で日本人に話しかけてみたとき、断られてしまいました。家に帰ってから、「日本を選んだのは正しかったのだろうか」と何度も悩みました。

それでも、仕事を続けるうちに毎日が少しずつ変わっていききました。わかりやすい言葉で話しかけてくれる同僚、小さなことでも「日本語が上手ですね」と、ほめて

くれる人たち。その優しさに触れるたびに、もう一日頑張ろうという気持ちがわいてきました。上司から「お金を貯めて母国へ帰れるよう頑張ってください」と声をかけてもらったとき、胸が温くなりました。

日本での一人暮らしは、思っていた以上に多くのことを教えてくれました。家賃、水道代、ガス代を計算しながら生活する中で、お金の大切さをあらためて実感しました。ミャンマーにいた頃は両親に頼るのが当たり前で、お金の管理など、あまり考えていませんでした。私も靴、服、カバン、化粧品など欲しい物はたくさんあります。でも、日本では必要なことを計算して使うようになりました。

また、「ありがとう」と「申し訳ございません」という感謝とお詫びの言葉、相手の立場に立って考えることの大切さも、日本で働いて身につけることができました。

ときには、疲れて、寂しくて、母の作ってくれた料理が恋しくて、自分の目的を忘れそうになることもありました。そんなとき、朝から夜まで懸命に働く日本人の姿が目に入りました。「疲れているのは私だけじゃない」と気づいたとき、どんなに辛くてもあきらめてはいけないうと自分に言い聞かせることができました。

国も文化も違っても、人と人のつながりがどれほど大切なかを、私は日本で学びました。自分になりたい未来は、自分だけが作ることができます。必要なのはやる気と根気だと私は思います。もし何かに挑戦しようか迷っているなら、まず小さな一歩を踏み出してみてください。成長と喜びが、その先に待っています。